

ベッテルハイムの『英琉辞書』とモリソンの『華英字典』との比較

高橋俊三

はじめに

Bernard J. Bettelheim(伯徳令、ベッテルハイム)は、ハンガリー生まれで、イタリアのパデュア大学で医学を学び、医者として活動した。後にイギリスに移り国籍をとった。H. J. クリフォードによって設立された英国海軍琉球伝道会から、布教のために琉球に派遣された。1846年5月から1854年7月の間、琉球に滞在しキリスト教布教、医療奉仕、聖書の琉球語訳、English-Loochooan Dictionary(以下『英琉辞書』と訳す)および(Elements or Contributions towards a Loochooan & Japanese Grammar(『琉球語と日本語の文法の要項』)の執筆などをおこなった⁽¹⁾。『英琉辞書』は、1851年12月に第一校了されて、その後も欄外に追加記入されている。これと文典は刊行されず、自筆稿本が最初は大英博物館に、そして現在は大英図書館に収蔵されている⁽²⁾。なお、ベッテルハイムは琉球に行く際、聖書や多くの伝道冊子のほか、ギュッツラフの日本語訳「ヨハネ伝」と、3つの辞書を携えていた。その一つは、下記のRobert Morrison(モリソン)の辞書⁽³⁾で、あとの二つは、Walter Henry Medhurst 著の『AN ENGLISH AND JAPANESE AND JAPANESE AND ENGLISH VOCABULARY』(『日本語語彙』1830年バタヴィア版)と、『An American Dictionary of the English Language』(1828年版か、1841年版)である⁽⁴⁾。

R. モリソンのA DICTIONARY OF THE CHINESE LANGUAGE(『華英字典』)は1815年にマカオで出版された。それは3部で構成されていて、パート1の表題は「字典 CHINESE AND ENGLISH, ARRANGED ACCORDING TO THE RADICALS」とあり、部首の画数順に並べられた字典である。パート2の表題は「五車韻府 CHINESE AND ENGLISH ARRANGED ALPHABETICALLY」とあり、ピンインのアルファベット順に並べられた字典である。パート3の表題は「ENGLISH AND CHINESE」とあり、英琉辞書である。パート3の扉には「PUBLISHED AND SOLD BY BLACK, PARBURY, AND ALLEN, Booksellers, Leadenhall Street, LONDON. 1822.」とある⁽⁵⁾。

拙論では、ベッテルハイムの『英琉辞書』と、モリソンの『華英字典』のパート3「ENGLISH AND CHINESE」(以下、単に『華英字典』と称する)を比較し、その特徴や関係を明らかにしたい。なお、ベッテルハイムの『英琉辞書』とメドハーストの『日本語語彙』との比較は、伊波和正氏がおこなっている。伊波氏は「メドハーストとベッテルハイムの比較(Ⅲ): 名詞⁽⁶⁾(1)」で、「名詞の記述から見る限り、ベッテルハイムが Medhurst に依って辞書編集作業を進めたとは言い難い。ベッテルハイムはある時は Medhurst を参照し、ある時はとらわれることなく、独自の方法でインフォーマントを活用して、編集作業を進

めたのであろう。動詞、形容詞、副詞などの扱いにおいてもこのことは言える。」と結論づけている。

(以下、引用文中における「一」は、ベッテルハイムによる、見出し語の省略記号である。『英琉辞書』の文中の丸括弧は{ }に変更する。必要に応じて『華英字典』の例文の先頭に◎を付け、『英琉辞書』のそれに○を付ける。『華英字典』と『英琉辞書』の引用において、英語の直後の〈 〉内は英語の訳を、琉球語の直後は琉球語の訳を、例文の最後にある〈 〉内はその出典を記載する。ピンインは適宜省略する。)

I 見出し語について

両辞書の見出し語と、その意味記述に分けて考察する。

1. 見出し語の量

『英琉辞書』の見出し語は約10400語であり、『華英字典』は約7400語である。ただし、一方の辞書では同一見出しの中にあるのに対して、他方の辞書では独立の見出し項目となっている場合もある。たとえば、『英琉辞書』では bed chamber、bed clothes、bed ridden、bed time などが、bed の説明文中にあるのに対して、『華英字典』では、おのおの独立の見出し項目となっている。したがって、おおまかな語数である。それにしても、『英琉辞書』の語数をはるかに多いといえる。

2. 『英琉辞書』独特の見出し語

『英琉辞書』独特の見出し語には、次のような医学・医療関係の語が多い。『華英字典』にはこれらの見出し語はない。

bubo 〈鼠径部のはれもの〉、diabetes 〈糖尿病〉、dropsy 〈水腫症〉、elephantiasis 〈象皮病〉、epidemy 〈流行病〉、lippitudo 〈目のふちのただれか〉、muscae volitantes 〈飛蚊症〉、nebulae 〈角膜混濁〉、phagad^マena 〈侵食性潰瘍〉、scurvy 〈壊血病〉、staphyloma 〈眼球突出〉、struma 〈甲状腺腫瘍〉、tetter 〈皮疹〉、tinea 〈白癬菌による皮膚疾患〉、granulations 〈肉芽形成病〉、hypochondry, hypochondria 〈心気症〉、vitreous 〈眼球の硝子体の液〉、lazaretto 〈ハンセン病院〉、scalpel 〈外科用メス〉、troca^マ 〈外科医用の套管針〉、alcohol 〈アルコール〉

また、『英琉辞書』には次のような魚貝類関係の見出し語が多い。『華英字典』にはこれらの見出し語はない。

anchovy 〈カタクチイワシ科の魚〉、bream 〈タイに似た魚〉、conger eel 〈あなご〉、finny 〈魚族〉、flying fish 〈飛び魚〉、gold-fish 〈金魚〉、gudgeon 〈コイ科のセイヨウカマツカ〉、lamprey 〈ナツメ鰻〉、perch 〈スズキ科の淡水魚〉、pilot fish 〈ブリモドキ〉、rayfish 〈エイ類〉、shad 〈シャド。ニシン科〉、stock-fish 〈干し魚〉、tench 〈コイ科の魚〉、conch 〈巻き貝〉、cowries 〈子安貝〉、haliotis 〈法螺貝〉、mother of pearl 〈真珠貝〉、periwinkle 〈タマキビ〉

以上、『英琉辞書』に医学・医療関係の語が多いのは、ベッテルハイムの来琉の第一の目的はキリスト教の布教であるが、第2の目的は医療奉仕であった。それで、患者との問診にそういった語が必要だったからであろう。魚貝類関係の語が多いのは、島国の琉球で生活していて、目にふれることが多かったからであろう。両辞書の見出し語を比較しただけでは、『英琉辞書』と『華英字典』の影響関係の有無ははっきりしない。

II 意味記述について

ここでは、同一の見出し語のもとに記述された内容を比較する。簡単な意味説明や語句例しか記載してないものは、特徴があらわれず、『華英字典』と『英琉辞書』は似ているようであり、また相違しているようでもあり、はっきりしたことはいえない。それに対して、語句例の多いものや長文の例文のあるものは相違や類似がはっきりする。以下では、そういった特徴のよくあらわれている意味記述を抽出して比較する。

1. 『華英字典』独特の意味記述

『華英字典』の porcelain の項には次のように記載されている。

Old fine porcelain intended originally for government, 官古器 kwan koo ke: for this, were selected all the finest and most beautifully smooth materials, 選諸質料精美細潤 seuen choo chih leaou, tsing mei, se jun.

これ以降に中国の磁器の歴史、材料、産地、種類など（約35文）が記載されている。『英琉辞書』では、次の1行が記載されているのみである。

Porcelain: yatchimung <焼き物>.

この両者の差異は、陶磁器の製造が盛んであるかどうかによる。

『華英字典』の botany の項には、次のように記載されている。

BOTANY may be expressed by 樹草花之總理 shoo tsaou hwa che tsung le.

In the Pun-tsaou-kang-mūh 本草綱目 (the best Pharmacopoeia and Botanical book in China), the following are the division of plants. The word 部 poo is used for class or order, 類 luy for genus, and 種 chung, for species, or variety. Of the Poo, or larger divisions, there are five.

これ以降に、中国の植物の分類階級を5部29類に分け、体系的に記述している。

『英琉辞書』の botany の項では、「Here follow the few general divisions of plants, names for which I could ascertain.」として、次のような植物名をあげているのみである。

kussa<草>; kūkū, kukumutzi<穀物>; yassé, nã <野菜>; naï-mung<果物>; kī <木>; kazira, kãndã <蔓性植物>; āsã, āsãnu lūi <苔類>; nãbanu lūi <きのこ類>; mimigu i <寄生植物>; māmĩ <まめ科植物>; ūĩ <瓜、ひょうたん>; dékuny <根菜類>; imu <じゃがいも、球根>; karazi, biranu kãrãzi <球根、玉ねぎの球根>

また、『華英字典』の flower の項には「Names of Plants which flower or blossom in each

month of the year at Canton, in China] として、148の草木が記載されているが、『英琉辞書』では、このような記載はされていない。

また、『華英字典』の music の項には「CHINESE GAMUT ; Or two sets of Characters corresponding to the European Gamut for the flute; drawn out by I. H. BLETTERMAN, Esq. of the Dutch Factory, in China, A. D. 1815.」とあり、音譜が記載されている。また楽器類なども記載されている。しかし、『英琉辞書』では記載されていない。また、『華英字典』のWEIGHTの項には、中国の度量衡のについて、詳しく説明しているほかに、「度法丈以下」「量法石以下」「衡法両以下」「自単位以上」「曆法」「畝法」「里法」の表が記載されている。

以上のように、『華英字典』は、陶磁器、植物の体系、草木名、楽器、度量衡などが詳しく記載されている。それに対して『英琉辞書』はそれが少ない。それは琉球でそれらが充分発達していないなどの理由によるのであり、ベッテルハイムの編集方針によるものではない。

2, 『英琉辞書』独特の意味記述

① 琉球語文法の記述

『英琉辞書』の being の項に次のような琉球語文法に関わる詳しい記述がある。

existencies, persons as well as things, are often expressed by the formatives sé, siga, attached to the verb, with which they coalesce & form nouns concrete & abstract; sometimes also by mung or kutu following a participle; <存在物は人も物も、しばしば形成素 se, siga を動詞に付けて表現する。その際、形成素は動詞と合体して、具象あるいは抽象名詞となる。時には、また mung, kutu がそれらに付く事がある>; the being {existence} <あること {存在すること}>, wūsi, wūru kutó; beings <有るもの>, wūssiga; those that are here {things or persons} <ここに有るもの {物や人}> kumanyi wūsé, wūssiga; what one has not one cannot give <持ってない物は与えられない>, nénsé quiraráng; unintelligent existencies <わかりにくい存在>, massashi ubé néransiga; the same construction answers for, all who, he who, one that, those that came, lived &c. which must be given with a verbal noun <同様の構文は“来る・存在する等々の全てのもの、彼、人、人々”のような場合にも役立つ。これらは動詞的名詞として与えられる>。(以下省略)

これは、琉球語の文法なので、当然『華英字典』には記載されていない。

② 擬声語の記述

『英琉辞書』の sound の項に、「日本には自然の音に似せた擬音が多くあり、その擬音に shung、あるいは mitchung, mikashungなどを付けるとその数の動詞ができる。以下にそのようにして作られた動詞を列記する」といった旨のことを記載したのちに、

次のように、擬態語を約105例ほど一覧できるようにあげている。

- sound of wind 〈風の音〉, só só, bá bá, gó gó-shung, kazinu bámmitchung.
 “ “ waves 〈波の音〉, só só, gó gó shung.
 “ “ carriage rattling 〈車がガタガタする音〉, tón tóng.
 “ “ axletree squeaking 〈軸木がきしむ音〉, gitchi gitchi shung.
 “ “ rain 〈雨の音〉, só só fuyúng.
 “ “ clock ticking 〈時計のチクタク音〉, gváng gváng, tuchīnu gváng gvángshung.
 “ “ teeth gnashing 〈歯がきしむ音〉, hā gishi gishi shung.
 “ “ bell 〈鐘の音〉, góng góng shung.
 “ “ small bell 〈小さな鐘の音〉, kéng kéng, kíng kíng, k'ling k'ling shung, gara gara shung. 〈sound〉
 “ “ money 〈金の音〉, ging ling.
 “ “ handbell 〈風鈴の音〉, gváng gváng.
 “ “ cracking between the teeth as cartilage 〈軟骨のように歯の間に碎ける音〉, gússu gussu-shung.
 “ “ cracking between teeth, as sugar candi 〈砂糖菓子のように歯の間に碎ける音〉, gassa gássa.
 “ “ thunder 〈雷の音〉, kannāinu gara gara-shung. (以下省略)

これら、擬声語が多いのも琉球語の特徴である。『華英字典』にはこういった記載はない。

③ 助数詞の記述

『英琉辞書』の numerals では、はじめに、1 から10までの和語と漢語などが記載されている。さらに「最初の数詞の組は、普通次のような分類詞とともに用いられる。{titsi(1つ)の場合のみ chu が用いられる}」といった旨のことを記載したのちに、次のような分類詞(助数詞)を約80例ほど説明している。

- firu 〈尋〉, hāni 〈羽〉, kū 〈{卵の}個〉, kútu 〈事〉, káki 〈{個体の}欠け〉, sidji 〈{ひもの類の}筋〉, kundji 〈束〉, nyi 〈荷〉, katami 〈肩で運ぶ荷〉, tskang 〈手の1つかみ〉, taī 〈滴れ〉, vaī 〈割れ〉, chiri 〈切れ〉, tsizi 〈粒〉, murushi 〈{多くは丸い}塊または積んだ物〉, mazing 〈積んだ物〉, narabi, nami, djó 〈並び、条、列〉, núchi 〈{珠、銅銭などの}貫き〉, ábushi, úni, mow, fū 〈{田畑の単位}畔、うね、野、歩〉, kútchi 〈口〉, yūdju 〈用事〉, kén, kéng 〈回〉, butchi 〈打ち〉, matchi 〈巻き〉, d é 〈台〉 (以下省略)

『華英字典』の numeral では、1 から10までの漢字、漢数字、洋数字などが記載されているのみで、助数詞については記載されていない。

④ 菓子名の記述

『英琉辞書』の cake の項では、次のよう語が記載されている。

cake / kvāshi, mutchi <菓子、餅> ; sweet — / ammutchi <餡餅> ; — with honey / hana bóru, matchi kadji <花ぼうろ、松風 (菓子の名)> ; — {boild} / mandju, pópó <饅頭、ポーポー> ; pond — / cāsitira <カステラ> .

以下、余白に、li-tó⁺-piang <李桃餅>, múmu bashi <桃ばし>, tachibána yáchi <たちばな焼き>, kunibu yáchi <九年母焼き>, kushtchigvāshi; <こしき菓子>, mǎndjū <饅頭>, min⁺ linu kvashi. <麺類、麺類の菓子>などの形や材料などが記載されている。

そのほか、『英琉辞書』は shell の項目以外に shells の項目を立て、11種類の貝類などを11単語あげている。

⑤ 琉球独特の事物・風習の記述

『英琉辞書』では、琉球独特の風習などを記載している。例えば、breast、knuckle、sick、urn の項では、次のように { } の中に、注記のようにして記載している。

○take that child to your breast {in the manner the children are carried here, within the mother's clothes near the breast} <あの子を君の胸に取りなさい {当地で子供が運ばれる方法で、母親の胸近くの着物にくるまれる}> / anu vorabi futsukurusé. <『英琉辞書』 breast>

○beat with the — {in the forehead, here an usual way of a parent venting his anger on a child}; <指の間節で{額を}打つ{当地では親が子供に怒りを表わす一般的方法である}> / kóshā kvāshung. <『英琉辞書』 knuckle>

○feel — {vomiturition; here supposed from worms in the belly} <病み気がする {吐き気、当地では腹の中の虫のせいと考えられている}> / mushi vassáng. <『英琉辞書』 sick>

○to put in the ashes {bones} of the dead {done here every 7th years, when the remains of the corpse are washed & put into an —} <死人の灰{骨}を厨子に入れる {当地では7年毎になされ、骨は洗われ瓶に入れられる}> / kutsi dzīshi-nyi irīung. <『英琉辞書』 urn>

以上のように『英琉辞書』独特のものでは、文法・擬態語・助数詞など琉球語に関する記述がある。布教のためには、琉球語に通じている必要があるからであり、当然でもある。また、琉球の菓子・風俗に係わる記述がある。ベッテルハイムが琉球で生活しているので自然なことである。ただ、宗教・思想関係に比して少ないようである。琉球への渡航目的がキリスト教布教のためであり、琉球の民俗の研究でなかったからであろう。また、琉球王府はベッテルハイムが琉球の人々と係わるのを妨害したりしたから、情報がえにくかったこともあろう。

3. 『華英字典』と『英琉辞書』と似た意味記述

『華英字典』と『英琉辞書』の似た意味記述を、まず微視的にみていこう。すなわち、個々の例文を比較検討することにする。

① 『英琉辞書』中の漢字

『英琉辞書』では、中国由来の語（外来語）とみなしたものについて、ところどころその漢字を記載しているが、その漢字と『華英字典』の中国語とが同一のばあいと比較的多い。aの項では『華英字典』の「一件」が、『英琉辞書』でも同じく「一件」とある。

◎To do a thing 做一件事。〈『華英字典』〉

○to do a thing ; / ʔttchĩn shung [一件] ; 〈『英琉辞書』〉

また、aboutの項では『華英字典』の「左右」が、『英琉辞書』でも同じく「左右」とある。

◎The soldiers he has about him, 在他的左右之兵丁。

○the soldiers — him / addiga sāyūnū 左右 finnu chā; (彼の周りの兵たち)

なお、このような漢字の記載は全部で約56例あり、その多くは『華英字典』にある中国語と同じである。(なお蛇足ながら、漢字の記載は dynasyty の項までに51例あるが、それ以後は5例あるのみである。そのかわりに、琉球語のその部分に+の印をつけて、中国由来の語であることをあらわし、そのもとの中国語（漢字）の多くは巻末の「Chinese Derivative」と題した所(627~668頁)に記載されている。

② 固有名詞などの記述

『華英字典』と『英琉辞書』の例文の英語を比較すると、ある語句のみが相違しているものがある。例えば、nearlyの項では『華英字典』の中国の地名 Canton が琉球の地名 Shui となっている。

◎He has now nearly arrived at Canton, 他如今差不多到了廣東。

○has now nearly arrived at Shuy / nama djibung yī kuru Shuy itataru {ndjaru} hazi; Shuinkae itáyuse yī kuru chkaku natóng; <今時分もうそろそろ首里に至った{行った}はずだ。首里に至る頃、近くなっている)

また、alasの項では『華英字典』の人名 Gan-shih が代名詞 he となっている。

◎Gan-shih (a famous Chinese statesman) did not fear heaven and how much less man! / 嗚呼安石天且不畏況人哉。

○— he did not fear heaven, & much less man! / ah, tin séka {tinó chong} ussurirang tuchindó, bishité chū ussurikāyā; <ああ、彼は天さえ{天王をも}恐れなかった、別して人を恐れようか)

また、meltの項では『華英字典』の中国語の yay (冶) が琉球語の yatchung となっている。

◎To melt in a furnace is expressed by yay, 爐鑄謂之冶。

○to melt in a furnace is called yatchung, /kama utchi nakaé tatchusi yachundi iyung;
 <釜で溶かすことは yatchung という>

③ 中国語に似た記述

『英琉辞書』の琉球語の中には、英語よりも『華英字典』の中国語によく似ている例がある。例えば、次の abhorrent の項では、『華英字典』も『英琉辞書』もその意味を2例あげている。また、『英琉辞書』の「nyindjónyi kǎnāng」は「人情にかなわない」に対応する形である。「不合人情」をあたかも漢文訓読したようである。

◎ABHORRENT to the feeling of man, 人情之所惡. 不合人情.

○that which is — /mickwassang <憎らしい> ; nyindjónyi kǎnāng, [不合人情].

また、love の項でも『英琉辞書』の琉球語は『華英字典』の中国語を漢文訓読したようである。

◎I have loved nothing in life but books and flowers. 余生無所好 惟嗜書與花。

○in my whole life I loved nothing but books and flowers : /vaga ishshó kunumu tukurundi iché nérang, tada shumutsitu hanatudu shtchóru; <私が一生、好むところとってはない。ただ書物と花とは好きであった>

以上のような両者の類似は偶然ではないであろう。

次に、意味記述を巨視的にみていく。見出し語が同じであり、その語の意味記述もよく似ているものが多くある。その中で多くの語句、例文を記述したものを選び出し、比較検討する。

④ 可能表現の記述

『華英字典』の able の項では次のようである。

◎ABLE, to be, 能, 有力, strength or power, 有才 possessing talent.

○Able / yūkū <よく> ; is — /yuku ang, nūnu ang; chikaranu ang, sénu ang <よくある、能のある、力のある、才のある>;

◎Able, not, through defect of strength — either physical power or pecuniary means, 力薄不能.

○not — through defect of strength / chikaranu yóssashī, naráng; <力が弱くてできない>

◎He is able to manage business, 他能幹辦事. 他能做事。

○— to manage business well / kutu sabakiung, yū bindjiung, yū ussamüung; <事をさばける、よく弁じる、よくおさめる>

◎He is able to pay, 他的力穀還債。

○— to pay, he is / addiga dzé lǐchī 財力, or chikara, sī fimbinsussinyi taritóng;

〈彼の財力、力は負債を返済するに充分である〉

◎He is able to read and write, 他能讀書寫字。

○he is — to read & write / adde simi yudaï, dji kachaï shusi näyūng; 〈彼は書き物を
読んだり、字を書いたりすることができる〉

◎I am not able to walk, 我走不得。我不能走。

○not — to walk / aché ōsān; 〈歩けない〉

◎Able to sustain the weight of any duty, 克當。

○— to sustain the weight of duty / tstomi bīchī mung, tstominyi, tstomiményi,
shukuményi atatóng; 〈勤めるべきもの、勤めに、職に当たっている〉

◎Able to comprehend illustrious virtue, 克明峻徳。

○— to comprehend this / yūkū kunu kutu achira mīūng; 〈よくこのことを明らかにす
る〉

◎He is able to lift that, 他有力可拿起那個。

○— to lift / ukusū bīchī, ukushussé nayung, ukushussinyi chikara taritóng; 〈起こす
べき、起こすことができる、起こすのに力がたりている〉

◎Not to be able to do as one wishes, 弗克如願。

○not — to do as one wishes / nigāyūru gutó shī ōsān; 〈願うようにしきれない〉

◎He is both able and willing to act, 他能做又肯做。

○— & willing / chikarang aī mata ukigumīnshung; 〈力もあり、意欲がある〉

◎Every one should do according as he is able, 各人宜照其力而行。

○every one should do according as he is — / fitubitu sunu chikaranyi vūdjitī si vadu
yaru; 〈人々はその力に応じてするべきだ〉

◎He gives more to the poor than he is able, 他出己力外賜與貧人。

○gives more than is — / mibunyi 身分 kwīti kvīūng, dzé lītchī sīdjīti, fusóvūnyi 不相
應 finsu munyi kvīung; 〈身分を越えて呉れる、財力以上に、不相応に貧しい人に
与える〉

各例文において、『華英字典』の英文と『英琉辞書』の英文はよく似ている。ほとん
ど同じとってよいくらいである。また『華英字典』の中国語と『英琉辞書』の方言
は似ている。

⑤ 部首の記述

『華英字典』には「RADICALS」の項目がない。しかし、『華英字典』パート1の1頁
に、「RADICALS」とあり、部首が214例ほど次のように記載されている。

1. 一 Yīh. One.
2. 丨 Kwān, To descend; C.
3. 丶 Choo. A point.

4. ノ Pěih. Bent out; C.
5. 乙 Yih. One.
6. 丿 Keuě. Hooked; C.
7. 二 Urh. Two.
8. 丩 Tow. (Undefined;) C.
9. 人 Jin. A man; C イ
10. 儿 Jin. A man; C.
11. 入 Jih, or Jüh. To enter.
12. 八 Pă. Eight. (以下省略)

これに対し『英琉辞書』は、radicals の項で、次のように部首とその呼び方と意味が記載されている。

- 一 ítchi 'fitchi; i.e. the stroke of one.
- 丨 tāti 'fitchi; i.e. a perpendicular stroke.
- 丶 útskí; i.e. a dot.
- ノ itchi tari;.
- 乙 ì fing;.
- 丿 hani bitchi {haniung sprinkle, ponding up}
- 二 nyi {fing}; i.e. the side {character} of two.
- 丩
- 人 nyín bíng.
- 儿
- 入 iru fing; i.e. the character, to enter.
- 八 fáttíng; the ting evidently is the spoiled fing; fattíng, the character of eight.
(以下省略)

最後に「意味又は音、又は両方とも上記リストに掲載されていないものは、努力したが突き止められなかったものだ。なお多くの情報が得られるであろうと思う。」といった旨の注記がされている。⁽⁸⁾ 部首は全部で224ある。『華英字典』と数が相違するが、『英琉辞書』は「水 mizzifing」と「彡 san zi」を別項目にしているからである。それを除くと『華英字典』と同じ214例となる。

⑥ 年中行事の記述

『華英字典』のkalendarの項目に「here follow a few astrological & other remarks of theirs on several days respectively.」として、民俗的・宗教的な記述がある。例えば、5月5日の部分は次のように記載されている。

- ◎It is also a term called 端陽節 twan yang tsěē, one of the greatest holidays amongst the Chinese. It is also thought to be a period extremely lucky. At noon on this day a

charm is written on paper and pasted up generally in different parts of the house.

五月五日午時書
官非口舌盡消除
蛇虫鼠蟻逃潛去
百病千災一切驅

On the fifth day of the fifth moon, I write this at noon,

May all litigations and altercations quite excluded,

May snakes, and insects, and rats and ants all run away,

May a hundred diseases, and a thousand calamities be every one expelled.

On this day, 忌作灶哭泣 shun the building of a furnace; weeping and crying. The day is 宜祭祀上表章上官出行 proper for offering sacrifice; presenting a memorial to the emperor, entering on an official situation; and going from home.

これに対して『英琉辞書』には次のように記載されている。

- Fifth moon 5th day, the dragon boat rowing day; gu gótsi gúnyitchi hālī kūdjūrū fī;
〈五月五日ハーリーを漕ぐ日。〉
- It is also called the term twan yang 端陽, tán yónu shtsi;
- At noon on this day a charm is written on paper and pasted on different parts of the house{wall}/ kúnu nyitchǐ mmánu túchidu úshimung káchi, kúbinu túkuru dúkuru nakae tskíídúshūrū: 〈この日午の時に呪文を書き、壁の所々につける。〉
- On the 5th moon, 5th day, I write this at noon; /gún gótsi gúnyitchi mmanu túchi du káitchuru; 〈五月五日午の時に書く。〉 (以下5例省略)
- All litigations and altercations quite excluded, snakes, insects, rats and ants run away, hundred diseases, thousand calamities at once expelled may be / uttai, mundógutúng kutugútuku shirizukitai, hbúng, mushíng, wénchung, áing núgitai, hákunu yamé, shínnu vazave ichi dūti stirariténdi nigatóng〈訴え、問答事もことごとく退けたり、蛇・虫・鼠・蟻も逃げ、百の病・千の災がいつときに捨てられることを願っている〉。
- Shun the building of a furnace, weeping & crying / kāmā tskotai nachaishusi chírayung〈窯を作ったり、泣き叫んだりすることは避けよ〉。 This day is proper for offering sacrifice, presenting a memorial to the emperor, entering on an official situation & going from home / matsitai, kótinkae búng ágitai, kvanyi tschāi, fukankae ndjiti yútashang〈祭ったり、皇帝に文を上げたり、官に就いたり、外に出たりするのに良い〉。

以上のように、able のような両言語に共通な可能表現や、radicals のような両言語に共通な文字の部首や、kalendar のような中国と琉球と共通の行事の意味記述が似ているのはごく自然である。ただ、その説明文があまりにもよく似ているのは注目すべきである。

⑦ 「天」の記述

『英琉辞書』の heaven の項には、語句 3 例のほか、例文が 92 例記載されているが、89 例は『華英字典』の例文と似ている。例えば、次のようである。

- ◎ Heaven is the greatest amongst unintelligent existences, 天者乃無靈覺中最大之物。
 ○ — is the greatest amongst unintelligent existences ; / tinó massashi ubé néransiga utché itsing úffissaru kutu; <天は靈威の覚えのない存在《不可知》の内で一番大きいものである。>
- ◎ The tenth heaven, 第十重 te shih chung, which is the dwelling place of Heaven's Sovereign, the Great Ruler, all the gods and saints, eternally tranquil and unmoved, 天皇大帝諸神聖所居永靜不動。
 ○ The tenth heaven, the dwelling place of heaven's sovereign, the great ruler, all the gods and saints, is eternally tranquil and unmoved ; / dé tū kassabi, tin⁺-kó, tai-ti, muru murunu kami, shinu ūsimé dju, shízikanyishi nagaku ndjukáng; <第十重の天は、天皇大帝諸々の神聖のお住まい所で、静かで永く動かない。>
- ◎ Trust in heaven's grace and the assistance of the gods, 仰頼天恩神佑。
 ○ Trust in heaven's grace & the assistance of the gods ; / tinnu wúng, kaminu tassikíng owdji tánunyun; <天の恩、神の助けも仰ぎ頼む。>
- ◎ Where is the Lord heaven not? 老天爺那裡不在。
 ○ Where is the Lord heaven not? / tinnu loyénu mānu útchinde menshórankaya? {amaniku ménshéng}; <天の老爺はどこにいないだろうか {あまねくいらっしゃる}。>
- ◎ Imperial heaven will not forsake a good hearted man, 皇天不負好心人。
 ○ Imperial heaven will not forsake a good hearted man ; / kótinnó yī kukurunu chu sumukáng; <皇天は良い心の人をそむかない。>
- ◎ Unless it is heaven's design that virtue's cause should perish, what can the people of Kwang do to me? 天之未喪斯文也匡人其如予何。
 ○ If it is not heaven's design that these principles {taught by Confucius} perish, what can the people of Kwang do to me? / Tinó kunu dóli⁺ ushināng tuchindó chó fitó vang chashinu nayuga {géshia narando} ; <天がこの道理を失わないときには、匡の人は私に何ができるだろうか {害することはできない}。>
- ◎ As if heaven were overturned and the earth subverted, 猶如天翻地覆。
 ○ As if — were overturned & the earth subverted ; / tinnu firugaī djīnu kutsigaī ssga gutukunyi ang; <天が翻えり地が覆えるが如くである)>
- ◎ A good man, heaven will no doubt reward 善人天自然賞. A bad man heaven will no doubt punish, 惡人天自然罰。
 ○ A good man, heaven will no doubt reward; a bad man heaven will no doubt punish. / djindjínó tin⁺ kara shidjinyi⁺ {nankuru} fóbi, aku nyinó ting kara batsi shī

mishéng. <善人は天から自然と{おのずから}褒美をうけ、悪人は天から罰をなされる。>

途中に次のような説明が書かれている。

The following quotations were made by the Jesuits during their controversy about the best mode of expressing God, in the Chinese language.

これ以降においても『華英字典』の例文と『英琉辞書』の例文は次のように似ている。

- ◎Heaven's ways are extremely subtle, hard, or impossible to be known, 天道甚微難知。
- Heaven's ways are extremely subtle & hard to be known, / tin⁺ dó hfána fada skustchi du yassiga, shiri gatémung {shī gatassang}. <天道ははなはだ少しであるが、知りがたい。>
- ◎That which is contained in the high heavens, has neither voice nor smell, 上天之載無聲無臭。(以下省略)
- That which is contained in the heavens above has neither voice nor smell / djó⁺-tinnu tsitsidósi kvin nérang kaza nérang; <上天が包んでいるものは、声も匂いもない。> (以下省略)

⑧ 孟子の引用

『華英字典』の rudely の項に次のような孟子の一部が例文として記載されている。

- ◎It is said in Mǎng-tsze, If a man treats me rudely, a good man will not forthwith go and treat him rudely, but will ask himself What have I done to provoke him to act so hatefully? Having done this thrice, and not found the least fault in himself: and that man yet behaves the same, the good man says He is a bad man, not different from a beast, — and so from first to last never goes to dispute with him.

孟子書上又説。人若待我無禮。做君子的人不肯就也以無禮待他。必定自己問着自家。我有甚麼不好處。惹的他如此可惡呢。一連三次自反到自己沒有絲毫的不是了。人家還是那樣可惡君子也只說個妄人。和那禽獸無異。始終總不去計較他。

これに対して、『英琉辞書』の rudely の項では次のように記載されている。

- It is said in Mentius' book / modjīnu shūmutsinu ībunó ang; <孟子の書物に《次のように》言われている>
- If a man treats me rudely, a good man will not forthwith go & treat him rudely, but will ask himself, what have I done to provoke him to act so hatefully? / ftunu vanyi bulīshi kunshi taru munó chāki mata arinyi bulishé simáng, dū kai'ri 'nchi tūti, vané nūnu ikang kutunu áti ari vang kunu gutu nyikunyuga? <もし人が私に無礼をしても、君子たるものどうしてまた彼に無礼してよかろうか。自分を省みて、問う。私に何のいけないことがあって、彼が私にこのように憎むのかと。>
- Having done this 2-3 times & not found the least fault in himself, and that man yet

behaves the same, the good man says, He is a bad man, not different from a beast, & so from first to last never goes to dispute with him / nyi sandu dūnyi fikéchi kíssidji fudúng ikáng kutunu nénsiga, chūnu mata vang anu gutu shung, kunshé anshi ari yana ftu, chindju {tuī ichimushi} nyi kavarándi ichi, súttung aritu munu ittchāi madjivānsang. <二、三度自分に自省しても、毛筋ほどもいけないことがない。しかし、人がまた私にあのようにする。君子は、彼は悪い人で、禽獣にかわらないと言って、すこしも彼とものを言ったり交わったりしない。>

⑨ 道教の教条の引用

『華英字典』の ethics の項に、次のような道教の教条である「^(ママ)關聖帝君覺世眞經」が記載されている。

- I. 敬天地、禮神明、奉祖先、孝雙親, Venerate heaven and earth; perform the rites to the gods; Worship your ancestors; be dutiful to your parents
- II. 守王法、重師尊、愛兄弟、信友朋, Keep the king's laws, revere your teachers and superiors; Love your brothers, and be true to your friends.
- III. 睦宗族、和郷鄰、別夫婦、教子孫, Live in harmony with your kindred, agree with village neighbours; Let husband and wife mind their separate duties, and teach their children and grandchildren.
- IV. 時行方便、廣積陰功、救難濟急、恤孤憐貧, Always practice what is expedient for others; accumulate many secret deeds of charity; Rescue those in trouble; assist those who are hard pressed; pity the fatherless and compassionate the poor.

(以下 XXX までであるが省略)

『英琉辞書』の Ethical の項では次のように記載されている。

1. Tinchí tsitsishimi, kaminyi lí tskúshi, sushinyi tatimatsiti, ló uyanyi kó kó si. <天地をつつしみ、神に礼を尽くし、祖先に奉って、両親に孝行せよ>, Venerate heaven & earth, perform the rites to the Gods, worship your ancestors, honour your parents.
2. Kúku 'hó mámuti, shishó úmúndji, chódé kanasháshi, dushinu chānyi makutu tskússi. <国法を守って師匠を重んじ、兄弟愛し、友に誠を尽くせ>, Keep the laws of the land, esteem your teachers, love your brothers, & be true to your friends
3. Véka haródji mutsimashūnyishi, mura tunaīnyi vabukúshi, fūfū na mé mé vaki tá titi, shí sún̄g ushīgātā yū si. <親族睦まじくし、村隣に和睦し、夫婦おのおの分け立てて、子孫を教えることをよくせよ>, Love dearly your kindred, agree with village neighbours, be each married couple remaining by themselves, & teach their children & grandchildren

4. Tuchinu tayurinu kutu ukuné, firuku íng-kó tsimi, nangū skuī, chūūtassikiti, chu ī-mung migumi, finū avarimi. <時のたよりのことを行い、広く陰功を積み、難を救い、急を助け、一人者にめぐみ、貧を哀れめ> Do what is seasonable, accumulate largely secret deeds of charity, rescue those in trouble, assist those in hardships, pity the orphan, compassionate the poor.

(以下30まであるが省略)

⑩ 仏教の「地獄」の記述

『華英字典』のHELLの項に次のように仏教の地獄に関わることが記載されている。

The different hells are called 獄 yō, or prison; and according to 陽間所犯事項 yang kēen so fan sze heang, the sins committed in this world; the 陰司 yin sze, presiding judge in hades determines 該入何獄 kae jūh ho yō, which prison the sinner ought to enter.

Hell of suffering; the state of hungry demons; and condition of beasts; are by the Budhists called 三途 san too, the three ways. Thus it is said, 笞杖流徒大辟生當五等之誅、地獄餓鬼畜生歿受三途之苦: i.e.

Flogging, bastinading, transportation, banishment, and death, are the five punishments to be borne in this life.

Hell, hungry demons, and the state of brutes are three ways of suffering after death.

The ten kings in hades have each a hell to punish those they condemn; viz.

1st. 刀山地獄 the hell in which are hills stuck full of knives.

2d. 鑊湯地獄 the hell with an iron boiler filled with scalding water.

(以下省略)

『英琉辞書』では次のように記載されている。

The judge in hades determines, which prison the sinner ought to enter, according to the sins committed in this world / gushó gamínu kunu shkínyi tsimi ukachéru shidé, chāru djígukunyi tsimi mung īru bichígandi ichi, sadamüung. <冥土の裁判官が、罪人らが現世で犯した罪に応じて、どの牢獄に入るか決定する。>

Flogging, bastinading, transportation, banishment, and death are the five punishments {to be borne} in this life / butchi kvāchāi, tsishi {góshanshi} sūgutaī, naguchāi, utsuchāi mata kubi chichāi íchichótinu itsi shínanu {gū tūnu} batsi dú yaru <むちで打ち、杖でなぐったり、流罪したり、追放したり、また首を切ったり、生きていての五種{五等}の罰である。> ;

Hell, hungry demons, and the state of brutes are three ways of suffering after death / djí-gukó, yāsha yūri mata chkushónyi nataī shusi shidji áto mītsi kurúshimi ukīru míchi du-yaru <地獄、夜叉幽霊、また畜生になったりするのは、死後に三つ

苦しみをうける道である。〉。— The ten hells of the Budhists are called 1, hell with hills stuck full of knives / kátana yamanu dji guku (刀の山の地獄) ; 2, Hell with an iron boiler full of scalding water / ufu nābi yūnu dji guku (大鍋の湯の地獄) ;

(以下省略)

⑪ 「使徒信条」の記述

『華英字典』の creed の項に、次のように「使徒信条」が記載されている。

Creed of the Mahomedans is expressed in, 六件當歸信之事 six articles to be believed,

- 1) 我誠信眞主獨一尊大無比無似至清至淨 I sincerely believe in the true God, one alone and supremely great; to whom none is equal, none like, most pure and most holy.
- 2) 我誠信眞主造的一切天仙朝拜眞主聽差遣毫無違犯 I sincerely believe in all the heavenly angels who were created by the Lord; who appear before and worship the true God; who listen to his commands, and are sent to do his will, not opposing nor offending in the least degree.
- 3) 我誠信眞主降的一切尊經是主眞言非人編纂 I sincerely believe that all the sacred books sent down by the Lord, contain the true word of God, and are not human compositions.

(以下6まであるが省略)

他方、『英琉辞書』では2種類の訳が記載されている。一番目のものは次のように、英文がなく、琉球語のみである。これにあたるものは『華英字典』にはない。

○The apostolical —, as we have translated it, runs as follows: Vari shóti ūyā, soté yūkū, tīnchinu fhadjimi tskōyuru munó shīndjiru; mata Yasu Kristu, ariga ftuīnu musiku {chūīngvā} vātā nūshi, shī shīnyī kassagiti, Malia dū nyū kara 'mmarachi, Pontīu Pilatoga tuchinyi ūkītī, djūmūdjinīni tumiti, shidji 'hómurātērū munó shindjiung; ari gushónkae ūrī kudati, dé san nyitchinyi shidjōru utchi kara mata ukiti, ting nakae nūbuti, shóti ūya, soté yuku, midjīnu tīnyī yīyūng, ama kara mata kūdī shi itchichōru shidjōru mūnūng issényi tadashung; (以下省略)

〈我は上帝を、よく天地の始めを造る者を信じる。また、イエスキリスト、彼の一人の息子、我らの主、聖神にやどって、マリア童女から生まれさせてポンテオ・ピラトが徒刑を受けて、十文字にされて、死んで葬られたことを信じる。彼は後生に降り下って、第三日に死んでいる内から、また起きて、天に昇って、上帝の右横の手に座る。そこからまた来ようとして、生きているものも、死んでいるものも一斉にただす。〉

冒頭に「The apostolical —, as we have translated it」とあることからして、ベッテル

ハイムが中国から持参した伝道冊子あるいはパンフレットを琉球語に訳したものであろう。これは照屋善彦氏が「この年（1846年…筆者注）の十二月一日、国教会の早禱そうとうのかなりの部分を訳し終えた。「総告解」、「赦罪宣言」、「主の祈り」、「使徒信条」、「頌詠しょうえい」のすべてが含まれていた。⁽⁷⁾」と述べている「使徒信条」と思われる。「使徒信条」の二番目のものは次のようである。

○The — of the Mahomedans is expressed in, /kanarazi shindjirané narānsiga mūtsi
〈必ず信じなければならないのが六つ〉；

1) I sincerely believe in the true God, one alone & supremely great; to whom none is equal, none is like; most pure & most holy. /Vari ló⁺ djitsinyi makutu kami, fituri tā⁺ ttūiye; tagūye neng, nyitchose néng; íttāti chiūshī, íttati issadjiyuchinyi arundi tukuró shindjitóng; 〈我は、真の神、一人尊くて、たぐいなく、似ているものもなく、至って清く、至って潔いと信じている。〉

2) I sincerely believe in all the heavenly angels who were created by the Lord; who appear before & worship the true God; who listen to his commands, and are sent to do his will, not swerving in the least degree, /vari kami nushi kara tskoteru sūyónu t⁺ ín shing; makutu kaminu menyī fāmbiti, paishi; wīsī shtāgati, tskenyi makatchi, skushimu tagó kutu néng tukuru, lodjitsinyi shindji ung; 〈我神主から造ってある、すべての天仙、真に神の前にはべって拝し、命令に従って、遣いにまかせ、少しも違う所がないことを、本当に信じる。〉

3) I sincerely believe, that all the sacred books sent down by the Lord, contain the true word of God, & are not human compositions. /Vari soténu kami nūshi kara kudacheru shīnu chó, shó tinu kutubanyishi, ftunu ami atsimatésinyi arandi yū tukuró makutunyi shindjitōru; 〈我は、上帝の神主から下してある聖なる経は、上帝の言葉で、人が編み集めているのではないということを真に信じている。〉

(以下6までであるが省略)

1番目に書かれたキリスト教の「使徒信条」は『華英字典』の記載とは相当相違しているが、2番目に書かれたマホメット教のそれは『華英字典』の記載とよく似ている。

以上のように、儒教でもキリスト教でも重要な heaven (天)、儒教の『孟子』、道教の「關聖帝君覺世真經」、仏教の「地獄」、マホメット教の creed (使徒信条) が両辞典にスペースを取って記載されているのは、両辞書の特徴である。ただ、同じ『華英字典』でも、パート1とパート3は多少異なっているようである。朱鳳⁽⁸⁾2005によると、パート1の漢籍の引用は『詩經』253例、『禮經』109例、『書經』106例、『論語』49例、『孟子』57例である。パート1は中国の理解に役立てたいという傾向があるのに対し、パート3はキリスト教の布教に役立てたいという傾向があると思われる。それはともかく、『華英字典』の英文と『英琉辞書』の英文が似ているのと、『華英字典』の中国語と『英琉辞書』の琉球語がよく似ているのは注目される。

むすび

『華英字典』と『英琉辞書』の見出し語の差異、意味記述の差異からすると、一見両辞書には影響関係はないように思われる。『英琉辞書』に医学関係の記載が比較的多い点は、ベッテルハイムが本来医者であるのに対して、モリソンが宣教師であることから生じたことである。差異の多い見出し語は、言語・文化・社会・自然に関するものである。言語に関するものの差異は一方が中国語を知るための辞典で、他方が琉球語を知るための辞典であれば、自然に生ずる差異である。また、文化・社会・当然に関する差異は、考えようによっては、両辞書がともに百科事典的な要素をそなえているということであり、質的には似ているということである。

意味記述の英語、漢字、固有名詞、中国語、琉球語などを観察すると、『華英字典』と『英琉辞書』は偶然似ているというより、『英琉辞書』は『華英字典』を参考に行っているようである。able のような両言語に共通な可能表現や、radicals のような両言語に共通な文字の部首や、kalendar のような中国と琉球と共通の行事の記述では、例文がよく似ている。また、それら百科事典的な記述とともに、宗教・思想に係わるものは詳しい。キリスト教関係の例文が多いのは当然のことながら、道教、儒教、イスラム教に係わるものも多い。これは両辞典の特色である。しかも、内容がよく似ていることからすると、『英琉辞書』の意味記述は、『華英字典』を最も参考にして編集したと考えられる。

ベッテルハイムは、『華英字典』、なかでもその中国語の部分を通じて、琉球語を調査したと思われる。ベッテルハイムは中国語を学習していたし、助手として中国人の劉友干⁽⁹⁾を連れて行っていた。また、琉球でベッテルハイムに対応した板良敷（のちに牧志）朝忠をはじめとする通事（通訳を職務とする役人）たちは、中国語を得意としていたので、これらの人々の共通の言語としては中国語が最適であったのである。

しかし、『英琉辞書』の見出し語が、『華英字典』の見出し語より相当に多いことから、利用したのは『華英字典』のみではなく、他の辞書や参考書が利用されたと考えられる。ウェブスター英語辞典が使われたのであろう。また、医療関係の語が割合多いことからすると、医学専門書も参考にしたのであろう⁽¹⁰⁾。また、中国語訳された伝道パンフレットや聖書なども参考にしたと思われる。また、助数詞については、琉球あるいは日本の「節用集」のようなものを参考にしたのではないかと思われる。これらのことは、今後に残された課題である。

【注】

- (1) 吉田常吉「琉球におけるベッテルハイムの伝道」(1)～(3) (『沖縄歴史研究』第2～4号 1966～1967年) 参照。
- (2) 土井忠生「ベッテルハイムの琉球方言に関する著述」(『方言』第四卷第十号 1934年、『国語史論攷』1977年に再録) 参照。
- (3) 山口栄鉄『異国と琉球』(本邦書籍 1981年) 39頁に「一八四五年九月九日、ベッテルハイム夫妻及び満一歳を過ぎたばかりの女兒ビクトリア・ローズ、それに幼児の保母ジェイムス嬢の四人、英国はポーツマス港より香港への航路を往くウィリアム・ジャルダン号上の人となる。(中略) 医療器具、薬品収蔵箱の他に、琉球王への献上物、ノート多数、ロバート・モリソン編『華英字典』全三部等が携行荷物の一部を占める。」とある。
- (4) ベッテルハイムの1853年5月30日の日記に「それから、忘れてならないのは、サラトガ号の船上で、ウィリアムズ博士は私にモロッコ皮の大型ウェブスター英語辞典を、編集者からの贈り物として渡してくれたことである。」と記している。(上原正稔「大琉球発見」31 (『琉球新報』1986年))
- (5) ゆまに書房の復刻本(1996年)による。
- (6) 伊波和正「メドハーストとベッテルハイムの比較(Ⅲ)：名詞(1)」(『沖縄国際大学外国語研究』第2巻第2号 1998年) 200頁。
- (7) 照屋善彦『英宣教医 ベッテルハイム 一琉球伝道の九年間一』(2004年人文書院) 87頁。
- (8) 朱鳳「モリソンの『華英字典』にみる19世紀西洋人の中国語学習事情」(京都ノートルダム女子大学研究紀要』第35号2005年)。
- (9) 前掲の照屋善彦2004に「われわれがスターリング号に乗り込もうとしたとき、ひとりの男がやって来た。その男の英語力は、私の中国語ほどのできだった……」(30頁)と、また「(1849年)3月10日、マリナー号は中国向け出港し、中国語通訳の劉だけを乗船させて行った。(中略) 劉の帰国は宣教師ベッテルハイムにとって大きな痛手だった。彼は仕事上の同僚であっただけでなく、中国語の教師でもあったからである。」(142頁)とある。
- (10) 前掲の吉田常吉1966によるとベッテルハイムは「新訂種痘奇法詳悉」という冊子も持っていた。